学力向上通信　Vol. 49
「三重の学-Viva!!（まなびば）」

10 月号

三重の 学（まな） Viva!!

10
2019

発行者：三重県教育委員会
「学力向上緊急対策チーム」
連絡先：研修推進課
TEL：059-226-3572

※学-Viva：「Viva」は，「生きる」という動詞から生まれた言葉です。三重の「学び場」が生き生きするイメージで名付けました。

平成 31 年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査の結果から

各学校における授業改善の取組や子ども一人ひとりの状況に応じたきめ細かな指導が成果につながりました！！

教科に関する調査の結果

５教科中３教科（小学校国語・算数、中学校数学）で全国の平均正答率を上回り、１教科（英語）で全国の平均正答率と同値になりました。４教科で全国平均以上となったのは、調査開始以来初めてです。無解答率についても、全教科（小学校国語・算数、中学校国語・数学・英語）で全国の平均無解答率を下回りました。全教科で全国より良好な水準となったのは、平均正答率と同じく調査開始以来初めてとなります。

平均正答率	小学校		中学校		
	国語	算数	国語	数学	英語
三重県	64.2 (+0.4)	66.7 (+0.1)	71.7 (−1.1)	60.3 (+0.5)	56.0 (±0.0)

平均無解答率	小学校		中学校		
	国語	算数	国語	数学	英語
三重県	5.47 (−0.74)	2.49 (−0.17)	2.57 (−0.03)	6.65 (−0.66)	5.44 (−0.55)

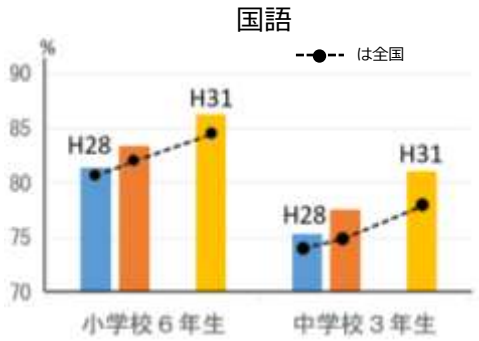
児童生徒質問紙調査の結果

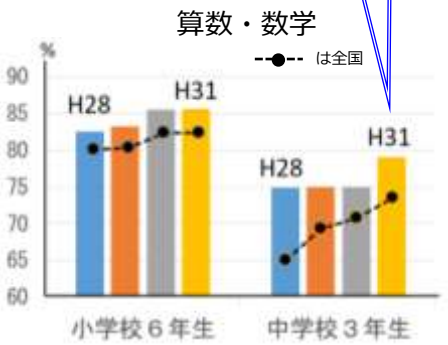
「授業の内容はよく分かる」「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれる」との質問に肯定的に回答している子どもの割合が増加しています。今回の結果は、学校の「できなかったことをできるようにする」取組や「子ども一人ひとりの学びに寄り添ったきめ細かな指導を進めてきたこと」によるものと考えています。

「授業の内容は分かる」と答えている子どもが増えています！

全国よりも５ポイント以上上回っています。

「授業の内容はよく分かる」　＜肯定的な回答の割合＞



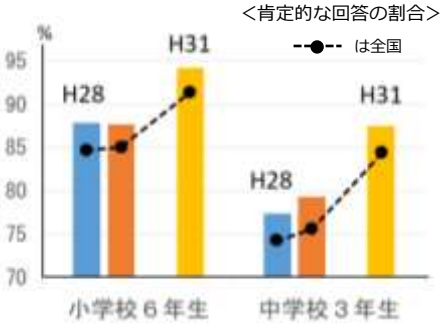


※平成 30 年度は上記質問は実施していません

小中学生ともに、H28 年度以降増加し、全国を上回る状況が続いています。

「先生は分かるまで教えてくれる」と感じています！

「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれる」
＜肯定的な回答の割合＞



※平成 30 年度は上記質問は実施していません

中学生は、肯定的な回答の割合が H28 年度以降増加しています。小中学生ともに、H28 年度以降全国を上回る状況が続いています。

各学校においては、今回の成果と課題を学校全体でしっかり共有し、学習指導要領の趣旨・内容を踏まえた授業改善の取組や、学習内容の理解と定着につながる取組をさらに進めてください。

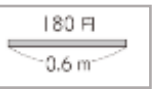
分析結果に基づく授業改善を！

全体として一定の成果が見られましたが、設問別に見ると課題が残るものもあります。今回は、小学校算数から課題の見られた問題を取り上げ、指導のポイント等を紹介します。各学年における授業改善に役立ててください。

課題の見られた問題（小学校算数）

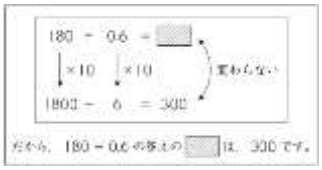
3（４）ゆいなさんは、下の問題について考えています。

リボンを 0.6m 買ったときの代金が 180 円でした。
このリボン１ｍ分の代金は、いくらですか。



１ｍ分の代金は　180÷0.6 の式で求めることができます。

ゆいなさんは、次のように、小数のわり算を整数のわり算にして答えを求めました。



1800÷６は、何ｍ分の代金を求めている式といえますか。
下の **あ** から **え** までの中から１つ選んで、その記号を書きましょう。

あ　0.6ｍ分の代金　**い**　１ｍ分の代金　**う**　６ｍ分の代金　**え**　10ｍ分の代金

＜子どもたちの解答状況＞

	解答類型	解答した割合 三重県	解答した割合 全国
1	**あ**　と解答（0.6m分の代金）	13.4%	12.9%
2	**い**　と解答（正答）（１ｍ分の代金）	44.3%	47.0%
3	**う**　と解答（６ｍ分の代金）	23.2%	22.2%
4	**え**　と解答（10m分の代金）	16.8%	15.2%

つまずき

解答類型１：180÷0.6 の式の除数の 0.6 に着目して、0.6m分の代金を求めていると誤って捉えていると考えられる。

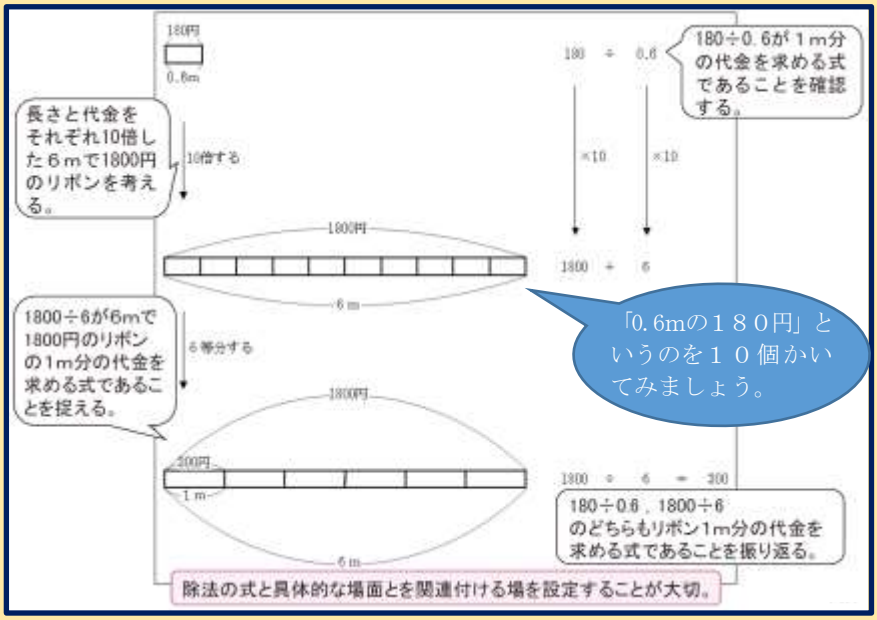
解答類型３：被除数と除数を 10 倍した 1800÷６の式の除数の６に着目して、６ｍ分の代金を求めていると誤って捉えていると考えられる。

解答類型４：180÷0.6 の式で 1m分の代金を求めることができることから、被除数と除数を 10 倍した 1800÷６の式では、10m分の代金を求めていると誤って捉えていると考えられる。

指導のポイント

◎必要に応じて、式が何を表しているのかを振り返ることで、式の意味についての理解を深めることができるようにすることが大切。

◎図や数直線などを用い、「なぜ１ｍ分の代金になるのか」を児童が説明する機会を設定することが大切。



180÷0.6 と 1800÷6 の式がそれぞれ何を求めている式といえるかを、具体物や図、数直線などを用いて考察する活動が考えられます。

図のように、0.6mで 180 円のリボンの長さと代金をそれぞれ 10 倍した６ｍで 1800 円のリボンを考え、1800÷６が 6mで 1800 円のリボンの 1m分の代金を求める式であることを捉えさせるようにすることが大切です。

ワンポイントアドバイス！

児童が説明をする場面では、説明の途中で教師が「『0.6m 分で 180 円』の図を 10 個かいてみましょう」とか「このあとＡさんは何て説明すると思う？」など、聞いている児童に声をかけ、「関わり」を持たせながら一緒に学習を進めていくことが大切です。

※「全国学力・学習状況調査の調査結果を踏まえた学習指導の改善・充実に向けた説明会」の資料より

全国学力・学習状況調査に関連する資料を活用しましょう！

国立教育政策研究所のホームページには、授業改善のポイントが書かれた資料がたくさん掲載されています。全国学力・学習状況調査の調査問題や解説資料、報告書、授業アイディア例、説明会資料等を、日々の指導に活用してください。

国立教育政策研究所のホームページへ

まずは一度アクセスを！

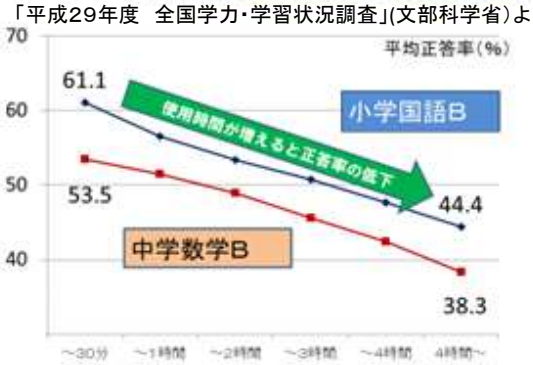
ケータイ・スマホの使用時間の減少に向けたルールづくり
自己管理の方法を学び、限りある時間を大切にする

ケータイ・スマホの長時間使用は学力低下につながる！

　ケータイ・スマホの使用時間と学力の関連性は、右のグラフでもわかるように使用時間が長いほど、正答率が低いという傾向がみられます。
　ケータイ・スマホの使用時間が長くなると、朝が起きるのがつらくなったり、授業にも集中できなくなったりする可能性があるなど、体調にも影響が出てくることが考えられます。

ケータイ・スマホの使用時間と学力との関係

「平成29年度　全国学力・学習状況調査」(文部科学省)より



三重県の子どもたちの現状

～ 三重県「平成 30 年度スマートフォン等の使用に関する実態調査」から ～

◆ケータイ・スマホの所持率　　小学生（４～６年生）39.3%、中学生 72.2%。
◆ケータイ・スマホを１日に２時間以上使用している割合
　　学校のある日　小学生（４～６年生）17.3%、中学生 45.4%
　　休日　小学生（４～６年生）29.3%、中学生 67.3%。
◆ケータイ・スマホを学習で使用していると回答した割合
　　小学生 55.8%、中学生 73.5%。
◆ケータイ・スマホで困ったことがあると回答した割合
　　小学生 7.7%、中学生 13.5%。
◆ネットに夢中になっていると感じていると回答した割合
　　小学生（４～６年生）58.2%、中学生 60.7%。
◆ネット利用を制限したり、時間を減らしたり、完全にやめようとしたが、うまくいかなかったことがよくあると回答した割合　　小学生（４～６年生）22.0%、中学生 26.9%。

★児童生徒自身もケータイ・スマホの利用について問題意識を持っていますが、上手に使いこなせていない状況があります。

守ることができる「ルールづくり」が大切

◆自己管理の方法を学ばせる視点を大切にする。**（使用禁止ではなく、子どものうちから使い方を学ぶ）**
◆家族で一緒に話し合って考え、子どもが主体的に決めることで、一生懸命守ろうという気持ちになる。
◆「ルールを作って終わり」ではなく、子どもの発達段階に応じてルールの見直しも必要です。

ルールの例

ルールは子どもを縛るものではなく、子どもを守るもの！

・宿題などやるべきことを終えてから　・午後９時まで　・家族の集まる居間で使う　・自室へ持ち込まない
・個人情報は載せない　・写真や動画のやり取りは慎重に　・自分が言われて嫌な言葉は使わない
・知らない人とやり取りしない　・有料のものは相談する　・何かあったらすぐ相談する

ケータイ・スマホの学習面での活用例

「わからない問題や単語を検索」　「動画サイトやアプリで問題の解き方や授業を視聴」
「勉強時間や試験のスケジュール管理」

　インターネットは、安全に正しく使えば便利なものである反面、使い方を誤ると児童生徒の日常生活や学習面に悪影響を及ぼしたり、誹謗中傷やいじめ等により人を傷つけたりすることとなり、場合によっては、犯罪の被害や加害に巻き込まれるケースもあります。
　三重県教育委員会事務局生徒指導課では、「平成 30 年度スマートフォン等の使用に関する実態調査」の結果を踏まえ、「インターネットトラブル対応事例集」（追補版）を作成するとともに、児童生徒のインターネット利用に関する知識や技能を育成する資料「みえネットスキルアップサポート」や、保護者に対して、インターネットの危険性や家庭でのルールづくりの必要性等を周知・啓発する資料「ネットトラブルから子どもたちを守るために」を県のホームページに掲載しています（三重県のホームページ「インターネット社会を生き抜く力の育成事業」URL：http://www.pref.mie.lg.jp/SEISHI/HP/m0206900057.htm ）。
　ぜひ、これらを積極的にご活用いただき、児童生徒がインターネット、スマートフォンと上手なつきあい方ができるよう取組を進めてください。

学力向上に向けた

具体的な実践事例

【事例３５】木曽岬町立木曽岬小学校

『一人一人が自分の考えをもち、伝え合い、学び合う授業づくり』

～算数科を中心に思考過程を表現する活動を大切にして～

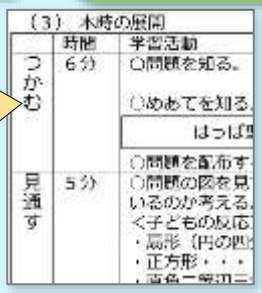
木曽岬小学校では、「自分の考えをもつ」「自分の考えを他者に伝え、他者の意見を聴く」「多様な考えを比較・検討して、よりよい解決方法をめざす」というプロセスを大切にし、学習課題に主体的に取り組む児童を育てています。

そこで、今年度は３つの力点を設定するとともに、問題解決型の授業を基本的な流れとし、児童がじっくりと思考できる授業づくりを学校全体で行っています。

基本的な授業の流れ

木曽岬小学校 学習過程	指導上の留意点及び支援の工夫
「つかむ」過程 問題・めあてをとらえる	**●思考を引き出す課題提示、導入の工夫●**（力点） ・問題は、児童にとって身近で、興味・関心がもてるものがよい。 ・問題の提示では、児童が「やってみたい」「考えてみたい」と思えるような課題提示、導入の工夫をする。
「見通す」過程 解決への見通しを図る	・既習事項の考え方を活用できるよう、問題提示の仕方を工夫する。 ・教員は、どこまで児童に問題を提示し、どこから児童に考えさせるのか明確にしておく。
「考える」過程 自力解決 伝え合い・学び合い	**●考えを伝え合い、学び合う学習活動の工夫●**（力点） ・自分の考え方を算数ブロック、絵、図、式、言葉などで表現させ、自力解決させる。 ・自分の考えを分かりやすく伝えさせる。 ・ペア、グループ、全体での話し合い活動を工夫し、多様な考えを比較・検討し、よりよい解決法を追求させる。 ・考えの共通点や相違点などをもとに、目的をもって話し合い活動を行わせる。
「まとめる」過程	・本時で学習した内容について、キーワードを使ってノートにまとめさせる。 ・授業のふりかえりを行わせる。 ・適用問題で児童がどれだけ理解しているか教師が把握し、次時につなげる。

各過程は、指導案（本時の展開）の中にも、必ず位置付けています。



（3） 本時の展開

	時間	学習活動
つかむ	6分	○問題を知る。 ○めあてを知る。 はっぱ
見通す	5分	○問題の図を見 いるのか考える。 ＜子どもの反応 ・高形（円の仲 ・正方形・・・

力点 ●思考過程が分かるノート作り●

ノート作りを児童の大切な思考の場と捉え、自分の考えを整理したり深めたりする場としています。学校全体で、「めあて・まとめは赤で囲む」「友だちの意見も書く」等、統一項目を設けています。

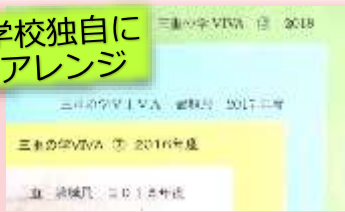
思考過程がわかるノート指導の積み重ねで、学力の確かな定着が見られるようになっています。

学校独自に再実施

全国学力・学習状況調査…１～２月
みえスタディ・チェック…１１月

全教員で採点し、課題のみられた問題を授業に位置付けています。児童はつまずきを克服するとともに、教員は指導の系統性を再確認することにつながっています。

学校独自にアレンジ



各ワークシートに「三重の学 VIVA」と学校で記し、県教育委員会の取組を基に、学力向上を図っていることが保護者にも分かるようにしています。

児童が学習に集中

全ての児童が学習に集中できるように、町の非常勤講師（少人数指導）・学習支援員等を十分に活かし、どの児童ももっている「わかりたい」「学びたい」という思いに、きめ細かに対応しています。

教員が授業に専念

教員が授業改善に専念できるよう、校務を支援する職員がいます。支援を受けて生まれた時間を使い、児童支援、教材研究、電子黒板やタブレットＰＣを効果的に活用した授業づくりを進めています。

木曽岬町立木曽岬小学校長からのコメント

本校では、町の学校教育基本方針にもとづいて、『一人一人が自分の考えをもち、伝え合い、学び合う授業づくり』という研究主題を設定し、学びの質を高め合う授業の創造を目指しています。そのために「授業スタイルの統一」や「学習環境・学習規律」の共通理解を図り、「少人数指導（習熟度別・TT）」や「家庭学習（「きそまなぶ」の配布）」の充実に努めています。また全国学力・学習状況調査やみえスタディ・チェックの分析から子どもたちの課題を明らかにして「授業改善」を進めています。